

2017年7月25日

非血縁者間骨髄採取認定施設
採取責任医師 各位
麻酔責任医師 各位

公益財団法人 日本骨髄バンク
ドナー安全委員会

骨髄採取後に尿道損傷を認め、退院後再出血した事例について

このたび、骨髄採取後に尿道損傷を認め、退院後再出血した事例が報告されました。本事例に関し採取施設からの報告によれば以下のような概要です。

ドナー安全委員会では非血縁者間ドナーに対する膀胱留置カテーテルに関しては、その必要性も含め検討を開始すると共に、再発防止・注意喚起の観点からご報告いたします。

なお、本事例に関し当該骨髄提供者の緊急対応として、認定施設間連携が図られましたことを併せてご報告いたします。

<ドナー情報> 40歳代 男性

<経過(概略)> ※詳細は、P2～P3

Day 0 骨髄採取施行
病棟に帰室後、膀胱留置カテーテルのバッグ内に尿が出ていないため確認したところ、尿道内でバルーニングしたことによる尿道損傷が判明
泌尿器科コンサルトの上で圧迫用にカテーテルを再挿入

Day +2 尿道からの止血を確認、排尿問題なく退院

Day +12 勤務中に出血、近隣の認定施設へ救急搬送、泌尿器科にて処置後、帰宅

Day +13 採取施設受診
帰宅後、尿道カテーテル内より凝血塊と血液の流出を認める
採取施設再受診、出血は止まっていたが、経過観察目的・膀胱鏡での出血点の観察が望ましいことから入院となる

Day +18 出血の再燃なく経過し退院

<原因等>

手術室で挿入した膀胱留置カテーテルによる尿道損傷

<当該施設の対策>

当該施設では、麻酔時間と輸液バランスを考慮した上で、極力尿道カテーテルの留置は避けることが事故の予防に繋がるものと考えられることから、今後は骨髄ドナーに対してカテーテル留置を行わないこととした。

<経過(詳細)>

Day +12 勤務先にて椅子に座っていると尿が漏れた感覚があり、急いでトイレに向かうが途中でズボンまで血が染みていた。
救急車を依頼し、トイレで様子を見てみると10分ほどで出血はおさまった。
認定施設へ救急搬送。(ドナーより)

【血液内科 報告】

来院時 BP120/mmHg、HR76 とバイタルサインは安定、尿道からの出血も止まっていた。

【泌尿器科 報告】

尿道損傷のエピソードがあるため慎重に16FrBa挿入出血なく挿入、ディブキャップ(DIBキャップ)で対応し、本日は帰宅とした。

■血液検査結果

WBC 3430	APTT 27.1 秒
RBC 382	PT 11.0 秒、115%
Hb 11.9	PT (INR) 0.94
Ht 34.4	フィブリノーゲン 271
Plt 22.0	D-D ダイマー <0.5

Day +13 尿道バルーン挿入脇から出血が再燃(午前8時 自宅)
採取施設受診

【血液内科 報告】

凝血塊による陰部の汚染を認めたものの、尿道からは少量のoozingを認めたのみであった。泌尿器科にコンサルト、ガーゼにより尿道を圧迫、後日泌尿器科外来にて抜去のタイミングを検討する方針となる。

同日11時頃、当施設玄関近くで骨髄バンクコーディネーターと会話中気分不快とともに意識消失発作が出現。30秒ほどで意識の改善を認めた。RRS

(院内のRapid response system) コールされ、救急外来初療室で対応、徐脈、血圧低下を認め、その他に特記すべき異常所見を認めなかったことから、迷走神経反射による意識障害と考えられた。補液によりバイタルが安定し自覚症状も改善し帰宅。

帰宅後、尿道カテーテル内より凝血塊と血液の流出を認めるようになり、

尿道脇からの出血も持続していたことから再度受診となる。

17 時頃に当施設救急外来を受診。泌尿器科コンサルトの上、膀胱内容物の確認を行ったが、血尿は認められず、膀胱損傷の可能性は低いと考えられた。尿道からの出血もその時点では止まっていたが、経過観察目的、膀胱鏡での出血点の観察が望ましいと考えられたため、同日入院となった。

■血液検査結果

受診時(午前)	入院時(午後 17 時頃)
WBC 4480	WBC 4980
RBC 348	RBC 353
Hb 11.0	Hb 10.9
Ht 32.2	Ht 32.4
Plt 21.6	Plt 22.3

Day +14

入院中

【泌尿器科】

泌尿器科で膀胱鏡を施行し、尿道球部に損傷を認めるものの、止血されることを確認。膀胱内も少量の凝血塊を認めたのみであり、尿道カテーテルの留置は不要と判断され、抜去された。

同日よりユリーフの内服を開始した。以降は出血の再燃は認めなかった。Hb 10.2 まで低下を認め出血の影響が考えられたため、鉄剤の内服を開始。

■血液検査結果

WBC 3320
RBC 328
Hb 10.2
Ht 30.7
Plt 19.2

Day+17

入院中

Hb 12.3 と貧血の改善を認める。

Day +18

退院

出血の再燃なく経過し退院となった。

以上

■本件に関する問い合わせ先 : 日本骨髄バンク ドナーコーディネーター部
担当: 折原 / 杉村 / 橋下
TEL03-5280-2200/FAX03-5283-5629